

な記録の中には、這般の消息を詳しく書いて居るものはないけれども、然もその所行上から考がへて見ても、此の方面から充分に注意すべき價值のあることであらうと思ふ。無辜の人々が彼等の爲に誅戮を加へられ、また種々の瑞祥凶兆などを稱へて人心を惑亂したことなどは、上に引いた諸書の殆んどすべてに見えて居る。鐵木眞が可汗の位に登つて成吉思可汗の名を稱するに至つたのも、實は Gueukdjia なる巫の提議によるといはれて居るし、<sup>16</sup> また Rubruck の記事の中にも “long since (the Moal) would have gone back to Hungary, but the diviners will not allow it” などと見えて居る。<sup>17</sup> 古來幾度か繰り返された北方民族の支那侵略の動機にも、かゝる巫覡の勢力の潜在して居つたことを想像して見るのは興味の無いことではない。唐の代宗の時に當つて回紇の牟羽可汗が軍を率ゐて唐に侵入し、郭子儀の威風に壓倒せられて歸つた時のことを記して「始虜有二巫、言此行必不戰、當見大<sup>18</sup>人而還、及是相顧笑曰、巫不吾給也」との記事の如きは、此の侵略に先き立つて巫覡がその謀に參與した光景を思ひ浮べしむるに足るものがある。

自分はこれより更に進むで、此等の巫が社會の信仰と尊敬とを基にして、遂に大なる勢力を作り上げるに至つたと思はるゝ二三の事例について論述して見たいと思ふが、それは別の機會に譲ることにする。

#### 四

さて此の巫のことを北方民族の間では何と呼んだものであらうか。一體此等の蒙古・ツングース・トルコ族等の人種、少くとも言語については、研究が進めば進む程、その姉妹關係の細やかなものであることが認められて來て